

神奈川県施設野菜共進会 最高賞に杉山さん、武藤さん、上原さん

JA全農かながわ農産総合課が事務局を務める神奈川県施設野菜組合連合会は7月29日、「令和6年度通常総会・神奈川県施設野菜共進会褒賞授与式」をJAセレサ川崎高津支店で開催した。新型コロナウイルスの影響で書面開催が続いていたものの、5年ぶりに対面開催し、生産者19人が参加した。

令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算が承認された。褒章授与式では、最高賞として立毛の部で藤沢市の杉山浩一さん（品目＝トマト）が農林水産大臣賞、野菜の部で平塚市の武藤登美夫さん（品目＝トマト）、平塚市の上原正二さん（品目＝キュウリ）が神奈川県知事賞に輝いた。

神奈川県農業技術センターの鈴木裕和所長は「燃油価格高騰の影響で、温度管理には特に苦労されたと思う。

う。このような厳しい状況のなか、素晴らしい出品をいただいた生産者の皆さまの熱意と高い技術力に敬意を表する」と講評を締めくくった。

県知事賞に輝いた武藤さんは「温度管理をシビアにしたことや、日々野菜と向き合いながら栽培したことが今回の受賞につながったと感じる」と語った。



野菜の部で最高賞である神奈川県知事賞に輝いた武藤さん

農業機械展示予約会開催 30社が出展 1,555人が来場し盛況

JAグループ神奈川は、8月1・2日、平塚市の全農かながわ田村事業所にて「農業機械展示予約会」を開催した。農機・資材メーカーを中心に約30社が出展。2日間でのべ1,555人が参加した。

当日は農業機械に加え、肥料・農薬、生産資材などのメーカーが



場内で展示された共同購入コンバイン最新製品を展示したほか、全農各部や連合会もブースを展開し、場内は賑わいを見せた。会場には、全国7千人以上の生産者の声を反映させて開発した「共同購入コンバイン」や、令和6年5月から取り扱いを開始した「関東6県JAグループスペシャルトラクター」など、最新の農業機械が展示された。厳しい暑さのなか、来場者は各メーカーのブースに足を止め、担当者から

説明を受けた。実物に触れ、試乗することで性能を確かめる様子が見られた。

そのほか、中古農機販売会や、農作業安全やセルフメンテナンスなどのミニ講習会も開催された。

事務局を担当した農機・自動車課は「台風接近で風が強いなかでの開催となったが、多くの方にご来場いただけた。今後も組合員のニーズに合った農業機械を提案していきたい」と話した。



田植え機の説明を受ける来場者

適正施肥でコスト削減をねらう JA施肥マイスター資格取得講習会開催

JA全農かながわ生産資材課は、7月25日JA施肥マイスター資格取得講習会を平塚市の全農かながわ田村事務所で開催した。JA施肥アドバイザー資格認定者に対し、より専門的な土壌肥料の知識の習得、適正施肥の指導ができる人材の育成、JA内部の研修会などで講師を務めることのできる人材の育成を目的としており、県内JA営農指導員ら14人が参加した。

講習会は、土壌の診断、処方箋の作成、施肥指導、作物体の分析など生産現場での課題解決を想定した延べ3日のカリキュラムとなっている。2日目の今回は、敷地内にあるほ場で土壌改良資材・基肥の選定をグループごとに行い、施肥と耕うん、コマツナの播種を行った。その後、土壌の生物性について講義で学び、分析結果に基づく処方箋の作成、施肥設計の演習を行った。

肥料価格の高騰を受け、適正施肥に向けた土壌分析の需要が高まり、診断結果を活用して処方箋を作成し、農家に分かりやすく説明できる人材が求められている。

同課の担当者は「土壌診断の認知度は年々高まって

いるが、診断結果をあまり反映せずに例年通りの施肥をされている方も多い。農家さんが診断結果を基に安心して施肥内容の見直しができる提案を行っていただきたい」と話す。

8月に最終日のカリキュラムを実施。そこで行われる認定試験に合格すると「JA施肥マイスター」に認定される。



耕うん作業を行う参加者

農業機械の知識・技術の取得で組合員への対応力強化 新任担当者向け農機取り扱い研修会

JA全農かながわ農産部は7月23日、新任担当者向け農機取り扱い研修会を、平塚市の全農かながわ田村事務所で開催した。農機担当者の知識・技術の取得に加え、営農・TAC・担い手訪問担当者にも農業機械の知識を取得してもらい、組合員への対応力強化と満足度向上を目的としている。農機センター新任担当者やTAC・担い手訪問担当者ら31人が参加した。

当日は、クボタアグリサービス(株)によるトラクター・管理機の基礎知識についての講義を行ったあと、ほ場で管理機を使用した作業、トラクターの操作やセルフメンテナンスを含むメンテナンス方法などの演習をした。

参加者は「農機の危険性を学び、安全に作業を行うために何に気を付ければ良いか分かった」「実際に機械

に乗ることで、自分の中でイメージを持つことができた」と感想を話した。



トラクターの取り扱い方法について説明を受ける参加者ら